

平成23年4月8日

## 東日本大震災NPO支援活動について

全国老人給食協力会  
事務局長 平野 覚治

東日本大震災の被災地NPO支援のために4月5・6日と宮城県仙台市を訪問した。  
訪問の目的は、

1. 被災地で活動している食事サービス団体の状況把握  
(全国老人給食協力会に加盟する会員団体の現状を把握)
2. 東日本大震災被災地NPO支援全国プロジェクト  
全国のNPOの中間団体(市民福祉団体全国協議会)や、他機関が連携し、被災地にあるNPOの支援を充実させるために活動を推進するための現地事務所の開設準備のお手伝い
3. 現地の関連機関から情報を入手する  
(宮城県庁・宮城NPOプラザ)

5日の朝5時過ぎにお菓子(ふきのとうボランティアや町会有志からの差し入れ)と携行缶などを積み込んで自家用車にて出発。途中、田中尚輝氏(市民福祉団体全国協議会専務理事)、牧野史子氏(介護者サポートネットワーク・アラジン代表)、池本修悟氏(NPO事業サポートセンター専務理事)と合流し、お米や水を積み込んで東北道を北上する。仙台に入る前に、介護系NPOで連絡が取れていない団体の拠点(宮城県山元町)を訪問。高速を降りて、目的地周辺道路を走行していると津波で流された浮きなどが田んぼの中に見られる。団体住所周辺は一般車両通行止めとなり、家屋や車の損傷が見られるようになり、歩いて事務所を探す。被害状況は深刻であり、がれきの中から目指す団体の看板を発見した。事務所が流されていたので連絡が取れない状況だった。この団体の代表者は、14時間海に漂っているところを救助され、生存が確認されているとのこと。



次に食事サービスやホームヘルプをしている介護系NPO団体「あかねグループ」(仙台市若林区)を訪問し様子を伺った。震災当日は揺れる中、配達するお弁当を守り、落ちてしまったお弁当を補充するために市内を廻り、夜の8時過ぎまで在宅高齢者へのお弁当を配りながら安否の確認をする。町は停電で信号も消えていた。翌日の土曜日は自転車で高齢者宅を訪問し、安否確認を行う。ガス不通により日曜日から一斗缶に炭火をおこしてご飯を炊き、避難所に行けない高齢者宅にガソリン不足により自転車で配食したとのことで、4月からは簡単な主菜副菜もつけて配っているとのこと。事務所は天井やパソコンが破損し、厨房機器なども一部壊れているとのことでした。東京でふきのとうボランティアや喜多見上部自治会の有志の方からご協力いただいたお菓子、またNPO市民福祉団体協議会に寄付いただいたお米や同協議会の会員から寄せられた支援金をお渡しする。



次は「食事サービスふたばの会」（仙台市太白区）を訪問する。こちらの団体は、拠点への直接の被害はなく、被災後直ぐにプロパンボンベを調理室に設置し、活動できるように改造し、物流が不足する中近隣の生協から食材を分けてもらい配食サービスを継続したとのこと。こちらの団体も同様に支援物資などをお渡しする。



夕方に、移動困難者の移動支援をしている東京の方が仙台で被災地支援活動に取り組んでおられる方より現地の状況等を伺う。夜には、被災地NPO支援の推進するための現地事務所で活動を行う方との情報交換を行う。宿泊はアパホテルに泊まることができた。但し、暖房、お湯は使えない。



6日は、仙台の麒麟ビール仙台工場付近を視察。その後に宮城県NPOプラザにて、現地の災害ボランティアセンターや他支援活動の状況を伺う。



その次に食事サービスやホームヘルプサービスを行う介護系NPO「グループゆう」（仙台市泉区）を訪問し、当時の様子を伺う。当日はお弁当ができていた時間帯だったので、夜の8時過ぎまでかかり、吹雪の中を配食を行ったとのこと。3日分の食材があったので、工夫をして配食を行った。13日には水が止まり、方々から水をかき集め、町会からはお米(玄米)を提供してもらい公園で炊き出しを行った。食材が底をつき、おにぎり2個にがんもどき、農家から分けてもらった葉物の炒め物などを調理し、歩いて配達してまわった。また鯛焼きを焼いて届けたり、近隣にもお分けした。16日からはガソリン、食材もなくなりやむなく活動を停止。ただし、電話にて在宅高齢者の安否確認をする。22日には食材を何とか手分けして入手し、工夫しながらおにぎり、鯛焼きを近隣の方に提供する。28日からは地域限定で配達を再開し、4月からは通常の活動となる。こちらの団体も他団体と同様に支援物資などをお渡しする。



6日の午後に宮城県保健福祉部長寿社会課と打ち合わせを行う。県の担当者には、阪神淡路大震災の際西宮で活動していた方から仮設住宅での孤独やうつ予防を目的とした「さわやかパラソル」活動について提案する。

次は配食サービス「ぼけっとはうす」（仙台市太白区）を訪問し、支援物資などをお渡しする。次いで「けやきグループ」（仙台市泉区）も訪問する。活動拠点には目立った被害もなく、プロパンガスを活用して調理を行ったとのこと。こちらの団体も支援物資などをお渡しする。



夕方6時過ぎに仙台を出発し、高速道路を東京に向けて出発。帰りの高速道路では、愛媛県や静岡等と全国の県警からの応援車両が、上り下り車線を赤灯を回しながら隊列を組んで走行しているのが印象的だった。

最後に。

被災地は、津波が来た所・来なかった所、道路一本を隔てて状況が全く異なっていた。また、食事サービスを行う在宅福祉系の団体はどの団体も創意工夫で日常の活動を行うべく努力をしていた。ボランティアは避難所から活動に参加したり、物資を手分けして入手したり、また炊き出しなど近隣の支えにもなっていた。

4月7日の強い余震の翌日に仙台の各団体に電話をした。この度の余震による被害を受けた団体もあった。

この度の震災では、震災後直ぐにNPO団体間で募金を募り、この度の支援金に活用したり、現物としてのお米等の寄付も寄せられたり、バザー収益の寄付を頂いたり、多くの全国の仲間達の物資やお金、また声掛けなど物心両面の支援の輪が広がっている。今後も継続した支援となる必要があると考える。